

## 「クオリティと効率の両立を目指したラボサイドでやるべきこと」

以前はポーセレンセラミックスにおいてはエクスターナルステインが許されない時代もあったが、マテリアルの進歩と技術の進歩、またCAD/CAMの精度向上のことから、近年においてモノリシックジルコニアクラウンは臨床においてよく目にするようになった。

私の現時点の考えでは臼歯部の補綴装置としては第一選択となる。前歯部審美領域においてはポーセレン前装タイプのジルコニアクラウンとモノリシックジルコニアクラウンを比較すると審美的側面では断然ポーセレン前装のジルコニアに軍配はあがる。しかしながらポーセレン前装タイプのジルコニアクラウンはポーセレンのクラック、ポーセレンがジルコニアからの剥離などの危険性が考えられる。そういった理由からモノリシッククラウンのニーズはあり、最善の技術とマテリアルセレクションをしなくてはより精度の高い補綴装置製作は不可能であろう。

今回は私が考えるモノリシッククラウンの色調に最も重要なステイン法の理論と効率を考慮した手法を紹介する。